

世界遺産と伝統芸能に
恵まれた風光明媚な地

中城村

- 面積 —— 15.46km²
- 人口 —— 16,548人(平成19年8月31日現在)
- 村花 —— ハイビスカス
- 村花木 —— クロキ
- 村魚 —— イジュキン

起伏に富んだ景観と中城城の誇りに満ちた村

中城村は那覇市と沖縄市の間に位置し、約3,500年前の貝塚時代から人が住んでいた場所として知られています。中央部には南北に丘陵が走っており、平坦部、斜面部、台地部から形成された地形はほぼ長方形を成しています。世界遺産にも登録された村のシンボル「中城城跡」をはじめ、城主護佐丸を題材にした組踊や村民参加型の中城まつり、大漁と航海の安全を祈願するハーリーまつりなど、数々の史跡や祭りなど

の伝統文化、豊かな土地と風光明媚な景観に恵まれた地域として多くの魅力に満ちています。



中城湾上空から見た中城村

農業や水産業のほか、魅力ある観光地としての整備も推進



中城村の特産品

主な産業は、さとうきびや菊、島ニンジンなどを栽培する農業、中城湾を漁場としたはえなわや一本釣り、パヤオ漁などの水産業です。また、螺鈿(らでん)や堆金などが施された漆器や、島ニンジンを使ったカステラなども特産品として注目されています。中城城跡公園の整備や人工ビーチを兼ね備えたエコ・コースト事業も進められています。

世界遺産登録の「中城城跡」に代表される史跡・文化財の宝庫

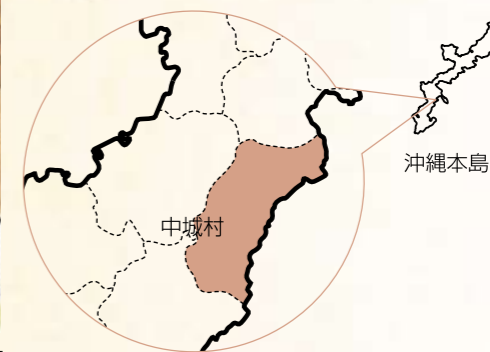
14世紀後半に護佐丸が築いた名城「中城城」は、2000年12月に世界遺産に登録され、琉球王朝時代の中城間切には琉球史を彩る多くの人物や史跡が登場。これを題材にした組踊りも生まれました。この他、村内には護佐丸の墓やテラと呼ばれる拝所、ペリー一行が訪れた旗立岩や「花の伊舎堂の歌碑」なども点在し、風光明媚な中城湾の眺望を生かしたパラグライダーなどのスカイスポーツも盛んです。



中城城跡



綿花を摘む中城の若い娘たち



沖縄本島

じっそう節

中城村伊舎堂の

毛遊び(モーアシビ)が盛んな
地で生まれた恋歌

民謡とわらべうたで巡る	監修 ● 仲宗根幸市 イラスト ● 本原健至
ふるさと	
と	
唄	
紀行	

県内各地に残る民謡やわらべうたは、懐かしい風景や当時の暮らしぶりを伝えてくれます。
うちな〜の唄が誘う地域の旅へ、まじゅん行かな(さあ出かけまじょう)!

「じっそう節」

思ゆらば里前

島とめていもれ

島や中城

花の伊舎堂

(標準語訳)

私のことを愛する心があるなら
私のふる里は中城の伊舎堂だから
どろぞたすねてきてください

※「毛遊び(モーアシビ)」とは、
男女が夜、野原や海辺にくりだし、唄や三線踊りに興じる
沖縄独特の娯楽風習。



花の伊舎堂歌碑

* 出典 「琉球列島・島うた紀行」

仲宗根幸市編著

